

仙台陣屋かわら版

第八十五号

(平成二十四年三月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp

〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-851-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

はじまりました、お雛さま展！

陣屋資料館では、恒例の『麗しの雛人形展』が二月十一日より開幕いたしました。今年も新たな顔ぶれが増え、年を重ねるごとに賑やかになってくる本展示会も、五回目を迎えることができました。代々受け継がれ、各家庭の幸せなひと時を一緒に過ごしてきたお雛さまを、多くの方々にご覧になっていただければと思います。昭和初期の五段飾りや、手製の立雛などいろいろな子たちが展示されており、三月三日までの会期中に足をお運びいただければ幸



〈上：展示されてるお雛様たち、
中：手作り体験教室、下：完成した手作り雛〉



いです。
さて、今年は昨年度実施し、好評を博しました「お雛さま手作り体験教室」を二日に渡り行ないました。作り方はいたって簡単。手の平サイズのお雛さまに、参加された方々は喜ばれていたようです。完成したお雛さまの一部は他のお雛さまたちと一緒に展示しておりますので、併せてお楽しみください。
なお、会期中は町民無料。最終日の三月三日には「お雛さま会」を実施いたします。参

加費は無料となっております。絵本の読み聞かせやお雛さまクイズなど、楽しい催し物がご用意です。皆さんお気軽に足をお運びください。お待ちしております。

不定期シリーズ【新着資料紹介】

今年は雛人形たちに、新たな仲間が加わりました。いままでも昭和初期の雛壇や掛け軸など珍しい資料を公開してきましたが、新しい人形もなかなか貴重な経緯を持っています。その由来について今回はご紹介いたします。

①内裏雛(平成雛)

秋篠宮文仁親王の成婚を記念し、皇室の許可を得て二人をモデルに作成。平成へ改元後の初の慶事にまつわる人形です。ところで、



成婚記念の内裏雛 (上)

皇后原作の内裏雛 (下)



内裏雛とよばれる人形は、天皇と皇后をモデルにするのが一般的です。その意味からも、①のような由来を持つ資料はかなりの稀と言えるでしょう。また現代では七段飾りのセッ

トをよく見かけますが、と
きおり、内裏雛が御殿内に
鎮座している場合もありま
す。この御殿が宮中の紫宸
殿(ししんでん)を模したも
のであるのはご存知でした
か?節会(せちえ)や大嘗祭
(だいじょうさい)などの行
事が執り行われた建物で、
前面の東には「左近の桜」、
西には「右近の橘」が配置
されています(京都の左右
は、殿中から見た方角が基準)。桜と橘は、
左右大臣のモデルとも言われます。現在の一
般的な雛壇では御殿つきのものが少なく、木
と大臣とが隣り合っている段飾りもよく見
られますが、もともとは紫宸殿を象徴する樹
木であったようです。

②内裏雛(大和雛)

原作者が皇后という、これも風変わりな由
来の人形です。皇后に指導していた寄贈者の
師匠が、やはり特別に許可を買って専門学校
の教材に用いたそうです。

PR展示会、ただいま鋭意準備中

陣屋資料館では毎年、三月から初春にかけ、
歴史と文化のまち白老を町内外にPRする
展示会を開催してきました。今年は昭和五十



六年にカナダはブ
リティッシュコロ
ンビア州ケネル市
と、国際姉妹都市
盟約を締結してか
ら三十年が経過し
たことを記念し、
両都市の交流の歴
史に焦点をあてて



〈交流事業の一コマ。ケネルを象徴する
ゴールドパンで砂金採りを体験中〉

開催いたします。先月号でも触れましたが、
両都市の関係は単なる都市間交流ではなく、
それぞれの地域性や産業が深く関わってい
ます。役場や各小中学校で保管されている記
念品のほか、姉妹都市交流事業の記念誌、そ
もそもぎっかけとなった製紙産業にまつ
わる資料などを集めて展示します。

会期は三月十七日(土)から五月六日(日)ま
で。実際に交流事業に参加された方にとって
は、数十年ぶりの懐かしい写真が御見えす
るかも知れませんよ。どうぞお楽しみに。

萩野の若武者、陣屋にあらわる!?

今年も、萩野中学校から一年生のみんなが
勉強のために来館。白老町や武士の歴史につ
いて学んでいきました。

鎧兜の試着体験では、生徒さんに着付けを
手伝ってもらい、全員とまではいきませんが
多くの子に試着してもらいました。大きい鎧

兜では重さが二〇kg
もあり、試着した生
徒さんからは「カッ
コいいけど重たい」
などといった感想が
聞こえてきました。



着て闘っていた武士
たちの苦勞などについて学んでもらえた
のではないでしょう。館内の展示解説や鎧
兜の試着を経て、教室の中では体験すること
のできない内容から、より色々なことに関心
をもってもらえればと願います。また多くの
子どもたちが、そうした掛け替えない機会
に触れられるよう、資料館としても努めてい
きたいと思います。

巡回展の締め括りはコミセンで

秋口から町内の各施設で行なってきた、社
台1遺跡出土埋蔵文化財の巡回展も、いよいよ
最後となります。二月二十二日(水)〜三月
七日(水)までの間、白老コミセンのロビーで
展示中です。お立ち寄りの際にでも是非ご覧
ください。

「仙台陣屋かわら版 第八十五号(平成二十四年三月)」

発行日: 平成二十四年二月二十一日(火)

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場